

# 日薬レトロポゾン研究会

2017年3月25日(土) 1:30~5:00

日本薬科大学お茶の水キャンパス【1号館館2階】

東京メトロ千代田線:湯島駅5番出口から徒歩2分

東京メトロ丸の内線、JR総武線:御茶ノ水駅から徒歩10分

ヒトゲノムの半分は化石化したトランスポゾンからなり、更に、約100コピーの活性を持つレトロポゾンが動いて、疾患や老化の原因となっているとされています。ゲノムの90%をレトロポゾンが占めている植物があり、更に、進化のドライバーとしてのレトロポゾンについても、新しく考察せねばならない概念です。

今回は、活性レトロポゾンの環境との闘ぎ合いを、新進気鋭の若手研究者にお話し頂き、解剖学とゲノム学との狭間で長年研究されてきた重鎮に巨視的な視点でお話し頂きます。

1:30-2:00 高垣洋太郎 日本薬科大学客員教授  
「ポストヒトゲノム後の健康科学: 活性内在レトロポゾンの関わりについて」

2:00-2:50 奥平准之 明海大学歯学部薬理学分野 参考文献1)  
「体細胞における LINE-1 レトロトランスポジションの転移機構」

-----休憩-----

3:10-4:00 伊藤秀臣 北海道大学理学大学院生物科学分野 参考文献2)  
「植物における環境ストレス応答性レトロトランスポゾンと適応進化」

4:00-4:50 三宅 力 慶応義塾大学理工学研究科特任教授 参考文献3)  
「脊索動物におけるゲノム構造と機能の進化ダイナミクスー全ゲノム重複、多重遺伝子族、トランスポゾン、遺伝子制御ネットワーク」

4:50 閉会

文京区湯島3丁目15-9

参考文献1) 2012 生化学 84(10) 870-4

参考文献2) 2013 化学と生物 51(9) 603-8

参考文献3) 2014 遺伝 68(3) 261-266

\* 本研究会は一般財団法人新技術振興渡辺記念会の助成を受けています。

\* 参加費無料。 皆様是非ご参加ください。

お問い合わせ先: 日本薬科大学 高垣洋太郎  
[yohtarotakagaki@gmail.com](mailto:yohtarotakagaki@gmail.com)

